

# 自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2008.4.24 No.1

北海道ボランティア・レンジャー協会

## アライグマ

アライグマは北米原産の哺乳類で、イヌ科のタヌキに似ていますが、アライグマ科という別のグループで、タヌキと比べて前足が短く、歩いている姿は前のめりになります。かつてテレビのアニメーション番組の放映もあり、日本に輸入され昭和60(1985)年頃販売のピークを迎えました。その後、これらのアライグマが逃げ出したり、成長するに従って凶暴になるため捨てられたりしたことが野生化の原因になってしまいました。北海道における最初の野生化は昭和54(1985)年に恵庭市内で飼育されていた10頭ほどのアライグマが逃亡し、酪農地帯に定着したのが始まりといわれています。

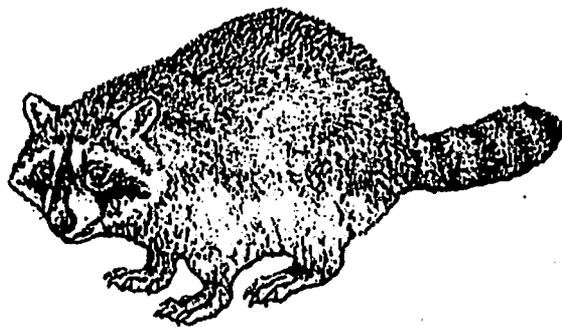
野幌森林公園でも住み着いていて、アオサギのコロニーが消滅した原因としてアライグマの影響が疑われています。また、他の地域では絶滅の危機に直面しているニホンザリガニの捕食やエゾサンショウウオの減少もアライグマのなせる業とされています。

アライグマの名の由来は食べ物を洗ってから食べるという習性からきているという説が一般化していますが、実際に飼育下ではそのような行動が見られます。このため、当初この行動は本能的なものとしてきました。しかし、最近の研究では野生のアライグマは食べ物を洗ってから食べるようなことは一切しないことが明らかになっています。

食欲旺盛、繁殖力大、天敵不在のアライグマは、農作物の被害とともに生態系に致命的な打撃を与える存在になりつつあります。加えて狂犬病の媒介者になることも懸念されています。

道内では120市町村での生息が確認されていますが、野幌森林公園においては平成17年度より3年間、道や学識経験者と連携してアライグマ防除モデル事業を実施した経緯があります。

アライグマに関わるさまざまな問題・課題の多くは、人間の不用意で無責任な行動によって引き起こされたことは言うまでもありません。



## 温室効果ガス

4月1日より京都議定書の約束期間が始まります。日本はこの議定書で、地球温暖化を防止するため、第1約束期間(2008年~2012年)に1990年(基準年)比で6%温室ガスを削減することになっています。2006年度における温室効果ガスは、1990年比で6.4%上回っていて、7月の北海道洞爺湖サミットでも、どう減らすかが大きな議題になっています。

北海道の実態については道民一人当たりの二酸化炭素排出量全国平均の1.3倍となっていて、これは冬の暖房や車に頼った生活のせいだと推測されています。

## 雌雄異株

ヤナギ類が花をつけています。この花をネコヤナギと一般的に言ってしまいましたが、ネコヤナギという種がありますので、どのヤナギの花をもネコヤナギと言うのは正しい言い方ではありません。ヤナギの雌花と雄花を確認するとき、雌雄異株という言い方をします。

雌雄異株とは、雄の株と雌の株に分かれていることをいいます。これと関連する幾つかの用語を説明しましょう。一つの花に雌しべと雄しべがある花を両性花といいます。植物は多様です。両性花ばかりではありません。単性花と言われる雄しべだけ持つ雄花、雌しべだけ持つ雌花に分かれている花もたくさんあります。

両性花は一つの花で両方の機能を持つので、もっとも効率のよいように思われます。しかし、自家受粉を防ぎ、異なった遺伝子を持った他の株の花粉を受精したほうがより強い子孫、より多様な遺伝子を持って多様な環境を生き抜く戦略をとれるのではないかと考えられています。

このようなことから、雌雄異株の樹木の存在は、それなりの意味があつてのことなのです。

雌雄異株の樹木は雄木と雌木が天然林にどのような割合で存在し、どのように分布しているかまだよく分かっておらず、調査はこれからのようです。

雌雄異株のヤナギの仲間はヤナギ、オオバヤナギ、ケショウヤナギ、ハコヤナギの4属に分類されますが、ハコヤナギ属はポプラ属のことで、ポプラ、ドロノキ、ヤマナラシなどがあります。

このほか雌雄異株にはつぎのような樹木もあります。

カツラ、キハダ、ヤチダモ、アオダモ、ニガキ、ヤマグワ、イチョウ、イチイ、ハイイヌガヤ、ヤマウルシ、ヌルデ、エゾユズリハ、ツルシキミ、ナニワズ、サルナシ、ツタウルシ、チョウセンゴミシ、ツルウメモドキ

### 花の観察

待ちに待った花の季節がやってきました。フクジュソウはキンポウゲ科で、気温に反応して咲いたり閉じたりします。ミズバショウやザゼンソウの花びらに見える部分は仏炎苞と呼ばれる苞です。フキノトウはアキタブキの花の部分で雌雄異株です。エゾエンゴサクはケシ科で地下に塊茎を持つ多年草です。木本（樹木）に目を移すと、キタコブシの蕾の先の多くは同じ方向を指しています。シラカンバやハンノキの雄花は尾状花序といいます。ハルニレの枝をよくみると地味な花を見つけることができます。ヤナギの仲間の、雌花と雄花の違いを観察しましょう。エゾヤマザクラの花芽がぶっくり膨らんでいて、今年は開花が早まりそうです。

### 観察会の予定

#### ・「春のありがとう」観察会

5月11日（日） 10:00~14:30 集合場所 野幌森林公園大沢口 ふれあい交流館  
公園内をゴミソ拾いをしながらの観察会です。弁当持参、軍手の用意をしてください。

#### ・恵庭公園観察会

5月18日（日） 10:00~12:00 集合場所 恵庭公園駐車場  
大きな花を咲かせる、サクラスマレに出会えますし、春の花々が待っています。

#### ・三角山登山観察会

5月25日（日） 10:00~14:00 集合場所 西区緑花会前の登山口  
三角山から大倉山への尾根筋をゆっくりと歩きます。シラネアオイが咲いています。